

自閉症児とカレンダーで意思疎通を 見通し立って落ち着く効果

福井新聞 D 刊（2014 年 12 月 15 日午前 7 時 00 分）

障害児のコミュニケーションのためカレンダー作りに取り組む参加者＝14日、福井市のアオッサ

自閉症児の保護者らがカレンダー作りに取り組むワークショップが14日、福井市のアオッサで開かれた。参加者は、自閉症の子どもたちの意思疎通をスムーズにするため、見て予定がわかるカレンダー作りの意義を学んだ。

福井県内の知的障害児の保護者らでつくる「にこにこクラブSUNFISH」が初めて企画した。同団体によると自閉症や発達障害がある人は先の見通しを持ちにくいという傾向があり、カレンダー作成によって見通しが立って落ち着いて過ごせ、自分で予定を立てる一歩にもつながる。

保護者や特別支援学校の関係者ら約80人が参加。自閉症の人を支援している奥平綾子さん（兵庫県）の指導の下、1カ月単位のカレンダーに写真やイラストを交え「通院」「家族で食事」などの予定を書き込んでいた。

4歳の孫が自閉症という女性は「1週間単位のカレンダーは作っているが、より先の見通しが立つよう、月単位のものも大事だと分かった」と話していた。

